SUPPLEMENT TO GENES GENET. SYST. (2009) 84 (4) August 2009

GSJ
コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html

GSJ
コミュニケーションズ
84–4
日本遺伝学会交流誌　GGS 付録
2009年11月20日発行

目　　次　　頁

総会次第 …… 3
1）会員数 …… 3
2）2009年度役員名簿 …… 4
3）2008年度決算報告書（単年度） …… 4
4）2009年度中間報告（2009年 6 月30日現在） …… 5
5）2010年度予算案 …… 6
6）2009年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞 …… 6
7）協力委員会 …… 6
8）学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール …… 7
9）年次大会開催地一覧 …… 8
2009年度日本遺伝学会第 2 回評議員会議事録 …… 9
日本遺伝学会第81回大会総会議事録 ……11
日本遺伝学会第81回大会を終えて　伊藤建夫 ……11
名誉会員および学会賞受賞者の紹介 ……12
2009年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書 ……13
国立遺伝学研究所　研究教育職員募集要項
新分野創造センター ……18
構造遺伝学研究センター ……19
第21回　国際シロイヌナズナ研究会議開催のご案内 ……20
公開合同シンポジウム　さきがけ 2 領域　2009　東京　プログラム ……22
本会記事
会員異動 ……23

日本遺伝学会第81回大会総会

日　時　2009年 9 月17日（木）　17時10分～19時00分
場　所　信州大学理学部 A棟・講義棟　A会場

総会次第

1	大会委員長挨拶	委員長	伊藤　建夫
2	日本遺伝学会会長挨拶並びに報告	会長	五條堀　孝
3	報　告		
	a　幹事報告	国内庶務幹事	小林　武彦
		渉外庶務幹事	遠藤　俊徳
		会計幹事	真木　寿治
		編集幹事	遠藤　　隆
		企画・集会幹事	岩崎　博史
		将来計画幹事	山本　博章
		男女共同参画推進担当	松浦　悦子
		広報担当，ホームページ編集	斎藤　成也
		遺伝学普及・教育担当	池村　淑道
		その他	
	b　学術会議から	学術会議会員	五條堀　孝
	c　学会賞選考委員会報告	委員長	五條堀　孝
	d　生物科学学会連合報告	委員	石和　貞男
	e　その他		
4	議　事		
	a　2008年度決算	会計幹事	真木　寿治
		会計監査	印南　秀樹
	b　2010年度予算案	会計幹事	真木　寿治
	c　第83回大会について	企画・集会幹事	岩崎　博史
	d　国内名誉会員の推薦について	会長	五條堀　孝
	e　その他		
5	次期（第82回）大会委員長挨拶	第82回大会委員長	高木　信夫
	日本遺伝学会奨励賞授与式	会長	五條堀　孝

1）会員数　（2009年 8 月20日現在）

普　通　会　員	1,036 名	（内学生会員　233名）
外　国　会　員	8 名	
機　関　会　員	59 件	
賛　助　会　員	4 件	
名　誉　会　員	国内　12 名	
	外国　12 名	
計	1,131名	

2）2009年度役員名簿

会　長	五條堀　孝				
評議員					
全国区	荒木　弘之	堀内　　嵩	片山　　勉	森　　郁恵	中別府雄作
	颯田　葉子	城石　俊彦	舘田　英典	田嶋　文生	高畑　尚之
北海道地区	金澤　　章	黒岩　麻里			
東北地区	山元　大輔	山本　和生			
関東地区	牧野　耕三	荻原　保成			
東京地区	関根　靖彦	田村浩一郎			
中部地区	石浦　正寛	伊藤　建夫			
関西地区	菱田　　卓	篠原　　彰			
中国･四国地区	沓掛　和弘	和多田正義			
九州地区	関口　睦夫	藤　　博幸			
幹　事					
国内庶務幹事	小林　武彦				
渉外庶務幹事	遠藤　俊徳				
会計幹事	真木　寿治				
編集幹事	遠藤　　隆				
企画・集会幹事	岩崎　博史				
将来計画幹事	山本　博章				
男女共同参画推進担当	松浦　悦子				
広報担当、ホームページ編集	斎藤　成也				
遺伝学普及・教育担当	池村　淑道				
会計監査	角谷　徹仁	印南　秀樹			
第81回大会委員長	伊藤　建夫				

学会賞選考委員会（2009）

委員長	五條堀　孝（木原賞）			
委　員	堀内　　嵩		城石　俊彦	田島　文生
	堀田　凱樹（奨励賞委員長）		倉田　のり	大坪　栄一

研究助成金等推薦調査委員会（2009）

委員長	五條堀　孝				
委　員	荒木　弘之	堀内　　嵩	石浦　正寛	森　　郁恵	中別府雄作
	颯田　葉子	城石　俊彦	舘田　英典	田嶋　文生	高畑　尚之

3）2008年度決算報告書（単年度）

A　収　入　　（単位　円）

摘　　要	決　　算
1　学 会 費	7,421,500
2　賛助会費	180,000
3　科学研究費補助金	2,300,000
4　事業収入	3,997,413
（内　訳）	
雑誌売上	1,585,108
別刷売上	2,402,760
利　　息	9,545
5　木原基金	400,000
6　雑 収 入	44,000
7　そ の 他	0
小　　計	14,342,913
総　　計	14,342,913

B　支　出　　（単位　円）

摘　　要	決　　算
1　事 業 費	8,895,959
（内　訳）	
雑誌製作費	6,444,941
大会補助費	592,253
遺伝学談話会補助費	221,180
大会学生旅費補助	518,000
協力委員会分担金	110,000
国際遺伝学会招致費	1,009,585
2　評議委員会／幹事会費	561,874
3　事 務 費	1,731,025
（内　訳）	
雑誌発送費	702,545
封 筒 代	13,650
編集経費	470,200
事務所経費	544,630
4　学会賞関係費	863,945
5　選挙関係費	902,232
6　謝　　金	1,281,340
7　そ の 他	0
小　　計	14,236,375
8　予 備 費	106,538
総　　計	14,342,913

4）2009年度中間報告（2009年６月30日現在）

A　収　入　　（単位千円）

摘　　要	（A）予　算	（B）1月～6月収入額	（C）7月～12月収入見込額	（B＋C）収入見込額
1　学 会 費	8,500	4,180	4,320	8,500
2　賛助会費	160	0	120	120
3　科学研究費助成金	2,000	1,700	0	1,700
4　事業収入	4,160	1,722	2,438	4,160
雑誌売上	1,455	734	721	1,455
別刷売上	2,700	986	1,714	2,700
利　　息	5	2	3	5
5　木原基金	200	0	0	0
6　雑 収 入	100	50	50	100
小　　計	15,120	7,652	6,928	14,580
総　　計	15,120	7,652	6,928	14,580

B　支　出　　（単位千円）

摘　　要	（A）予　算	（B）1月～6月支出額	（C）7月～12月支出見込額	（B＋C）支出見込額
1　事 業 費	9,740	3,618	5,167	8,785
雑誌製作費	7,500	3,578	3,422	7,000
大会補助費	1,000	0	1,000	1,000
遺伝学談話会補助費	300	0	80	80
大会学生旅費補助費	800	0	565	565
協力委員会分担金	140	40	100	140
2　評議委員会／幹事会費	1,000	1,445	250	1,695
3　事 務 費	2,430	932	1,685	2,617
雑誌発送費	800	348	332	680
封 筒 代	230	0	230	230
編集経費	500	227	223	450
事務所経費	900	357	900	1,257
4　学会賞関係費	550	81	150	231
5　選挙関係費	0	0	0	0
6　謝　　金	1,400	627	625	1,252
小　　計	15,120	6,703	7,877	14,580
総　　計	15,120	6,703	7,877	14,580

5）2010年度予算案

A　収入の部　（単位千円）

摘　　要	予　　算
1　学 会 費	8,500
2　賛助会費	120
3　科学研究費補助金	2,000
4　事業収入	3,960
雑誌売上	1,455
別刷売上	2,500
利　　息	5
5　木原基金	200
6　雑 収 入	100
小　　計	14,880
総　　計	14,880

B　支出の部　（単位千円）

摘　　要	予　　算
1　事 業 費	9,340
雑誌製作費	7,100
大会補助費	1,000
遺伝学談話会補助費	300
大会学生旅費補助	800
協力委員会分担金	140
2　評議委員会／幹事会費	700
3　事 務 費	1,890
雑誌発送費	700
封 筒 代	230
編集経費	500
事務所経費	460
4　学会賞関係費	550
5　選挙関係費	1,000
6　謝　　金	1,400
小　　計	14,880
総　　計	14,880

6）2009年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞

日本遺伝学会木原賞　該当者なし

日本遺伝学会奨励賞　久原　　篤（名古屋大学大学院　理学研究科）会員
「温度受容と記憶学習の神経遺伝学」

日本遺伝学会奨励賞　長岐　清孝（岡山大学資源生物科学研究所）会員
「植物の染色体構造に関する研究」

7）協力委員会

同位元素協会委員　　蓮沼　仰嗣

自然史学会連合委員　舘野　義男

生物科学学会連合委員　石和　貞男（国際生物学オリンピック委員）
岩崎　博史

8）学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

件　　名	助成団体名	締　　切
研究助成金	（財）山田科学振興財団	2010年３月31日（水）
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会	2009年11月30日（月）
東レ科学技術賞・研究助成	（財）東レ科学振興会	2009年10月９日（金）
沖縄研究奨励賞	（財）沖縄協会	2009年９月30日（水）
朝日賞	朝日新聞社	2009年８月31日（月）
研究調査助成	（財）日本証券奨学財団	2009年８月７日（金）
内藤記念科学振興賞	内藤記念科学振興財団	2009年10月１日（木）
内藤記念海外学者招へい助成	内藤記念科学振興財団	前期　2009年６月１日（月） 後期　2009年10月１日（木）
木原記念財団学術賞	（財）木原記念横浜生命科学振興財団	2009年９月30日（水）
井上学術賞	井上科学財団	2009年９月20日（日）
井上研究奨励賞	井上科学財団	2009年９月20日（日）
井上リサーチアウオード	井上科学財団	2009年７月31日（金）
持田記念学術賞	（財）持田記念医学薬学振興財団	2009年７月31日（金）
研究助成金	（財）持田記念医学薬学振興財団	2009年６月26日（金）
留学補助金	（財）持田記念医学薬学振興財団	2009年６月26日（金）
基礎科学研究助成	（財）住友財団	2009年６月30日（火）
環境研究助成	（財）住友財団	2008年６月30日（火）
科学技術賞及び若手科学者賞	文部科学省	2009年７月17日（金）
国際生物学賞	日本学術振興会国際生物学賞委員会	2009年５月15日（金）
山崎貞一賞	材料科学技術振興財団	2009年４月30日（木）
藤原セミナー	（財）藤原科学財団	2009年７月31日（金）
加藤記念国際交流助成	（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団	前期　平成21年３月31日 後期　平成21年８月31日
藤原賞	（財）藤原科学財団	2009年１月31日（土）
バイオインダストリー協会	（財）バイオインダストリー協会	2008年６月30日（月）
脳と創造性に関する研究助成	NPO 法人ニューロクリアティブ研究会	2008年１月31日（木）
研究集会助成	（財）ノバルティス科学振興財団	2007年９月30日（日）

各種助成金の募集

学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締めきりより，通常は１ヶ月早く締め切る。尚，各助成金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

9）年次大会開催地一覧

回	年	月　日	会　場
1	1928（昭３）	10月19日	九州帝国大学農学部
2	1929（昭４）	７月26日	北海道帝国大学農学部
3	1930（昭５）	10月31日	東京農事試験場
4	1931（昭６）	10月31日	京都帝国大学・楽友会館
5	1932（昭７）	10月14日	名古屋医科大学
6	1933（昭８）	10月26日	広島文理科大学　動物学教室
7	1934（昭９）	12月21日	台北帝国大学　生物学教室
8	1935（昭10）	10月21日	金沢医科大学　法医学教室
9	1936（昭11）	10月16日	岡山医科大学　生理学教室
10	1937（昭12）	７月31日	北海道帝国大学理学部
11	1938（昭13）	10月13～15日	九州帝国大学農学部・医学部・九州小麦試験地
12	1939（昭14）	10月14～15日	科学博物館（東京）
13	1940（昭15）	８月27～28日	京城帝国大学医学部
14	1941（昭16）	地方談話会大会（６会場）	（総会予定地は仙台）
15	1942（昭17）	10月27～28日	東北帝国大学　農学研究所
16	1943（昭18）	10月20～21日	京都帝国大学・楽友会館
17	1944（昭19）	地方談話会大会（７会場）	（総会予定地は名古屋）
18	1946（昭21）	11月18～19日	静岡高等学校
19	1947（昭22）	10月21～22日	松本高等学校
20	1948（昭23）	10月23～24日	高野山
21	1949（昭24）	10月20～22日	名古屋大学理学部
22	1950（昭25）	10月14～16日	東京大学医学部
23	1951（昭26）	10月11～12日	広島大学教養部
24	1952（昭27）	10月８～10日	新潟大学医学部
25	1953（昭28）	11月７～８日	国立遺伝学研究所
26	1954（昭29）	10月28～30日	京都大学医学部
27	1955（昭30）	10月16～18日	岡山大学
28	1956（昭31）	10月６～８日	富山市公会堂
29	1957（昭32）	９月３～５日	北海道大学農学部
30	1958（昭33）	10月16～19日	名古屋大学医学部
31	1959（昭34）	11月４～７日	大阪大学医学部
32	1960（昭35）	10月30日～11月１日	九州大学工学部
33	1961（昭36）	９月１～３日	東北大学川内分校
34	1962（昭37）	10月17～18日	日本大学文理学部三島校舎
35	1963（昭38）	10月８～10日	東京大学教養学部
36	1964（昭39）	10月18～20日	愛媛大学
37	1965（昭40）	10月18～20日	京都大学医学部・楽友会館
38	1966（昭41）	８月10～12日	北海道大学教養部
39	1967（昭42）	10月９～11日	神戸大学教養部
40	1968（昭43）	10月７～９日	広島大学教養部・政経学部
41	1969（昭44）	10月10～12日	金沢大学工学部
42	1970（昭45）	10月５～７日	東京女子大学短期大学部
43	1971（昭46）	10月20～22日	九州大学理学部・農学部
44	1972（昭47）	10月７～９日	岡山大学理学部・法文学部
45	1973（昭48）	10月14～16日	名古屋大学農学部
46	1974（昭49）	９月10～12日	福祉会館（仙台）
47	1975（昭50）	10月３～５日	日本大学三島校舎
48	1976（昭51）	10月28～30日	日本生命中之島研究所（大阪）
49	1977（昭52）	９月28～30日	北海道経済センター（札幌）
50	1978（昭53）	10月８～10日	東京農業大学
51	1979（昭54）	10月11～13日	京都大学農学部
52	1980（昭55）	10月６～８日	富山大学教養部
53	1981（昭56）	10月12～14日	広島大学総合科学部
54	1982（昭57）	11月19～21日	九州大学医学部
55	1983（昭58）	10月８～10日	東北大学教養部
56	1984（昭59）	11月23～25日	日本大学国際関係学部
57	1985（昭60）	10月13～15日	神戸大学農学部・理学部・自然科学系
58	1986（昭61）	12月４～７日	名古屋観光ホテル
59	1987（昭62）	10月29～30日	筑波大学生物科学系
60	1988（昭63）	10月８～10日	京都大学農学部
61	1989（平元）	10月13～15日	北海道大学学術交流会館
62	1990（平２）	10月４～６日	お茶の水女子大学
63	1991（平３）	10月16～18日	九州大学箱崎キャンパス
64	1992（平４）	10月22～24日	仙台国際センター
65	1993（平５）	９月17～19日	日本大学国際関係学部
66	1994（平６）	10月８～10日	大阪大学医学部講義棟
67	1995（平７）	10月12～14日	岡山大学一般教育講義
68	1996（平８）	10月３～５日	名古屋・椙山女学園大学
69	1997（平９）	11月１～３日	横浜市立大学瀬戸キャンパス
70	1998（平10）	９月23～25日	北海道大学学術交流会館
71	1999（平11）	９月24～26日	広島大学理学部・法学部・経済学部
72	2000（平12）	11月３～５日	京都大学農学部・京都会館会議場
73	2001（平13）	９月22～24日	お茶の水女子大学
74	2002（平14）	10月１～３日	九州大学箱崎キャンパス
75	2003（平15）	９月24～26日	東北大学川内キャンパス
76	2004（平16）	９月27～29日	大阪大学コンベンションホール
77	2005（平17）	９月27～29日	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）
78	2006（平18）	９月25～27日	つくば国際会議場
79	2007（平19）	９月19～21日	岡山大学
80	2008（平20）	９月３～５日	名古屋大学
81	**2009（平21）**	**９月16～18日**	**信州大学**

2009年度日本遺伝学会第2回評議員会議事録

日　時：2009年9月15日（火）13：40－15：40
場　所：信州大学理学部A棟1階多目的ホール
出席者：（会　長）五條堀　孝
（幹　事）小林　武彦，真木　寿治，岩崎　博史，池村　淑道，遠藤　俊徳，山本　博章，松浦　悦子，斎藤　成也（順不同）
（国際生物学オリンピック委員）石和　貞男
（大会委員長）伊藤　建夫
（評議員）堀内　　嵩，中別府雄作，舘田　英典，田嶋　文生，金澤　　章，山本　和生，牧野　耕三，荻原　保成，関根　靖彦，田村浩一郎，石浦　正寛，菱田　　卓，篠原　　彰，沓掛　和弘，和多田正義，関口　睦夫，藤　　博幸（順不同）

1　会長挨拶（五條堀）

2　大会委員長挨拶（伊藤）

当初，遺伝学会の会員3名で大会準備委員会を発足したが，これを機に教官，学生に入会してもらった．またAE企画に参入してもらい，予算も大幅な赤字をだすことなく大会を開催できる見通しである．

3　報　　告

3.1　会長（五條堀）

- 第80回大会以降の物故会員について以下のとおり報告がなされた．

【外国名誉会員】
TAN, C. C.（2008年11月1日ご逝去享年100歳）
【国内名誉会員】
小関　治男（2009年1月13日ご逝去享年83歳（元学会長 S60. 1. 1－ S. 61. 12. 31.））
樋渡　宏一（2009年3月7日ご逝去享年88歳）
田島弥太郎（2009年7月20日ご逝去享年96歳（元学会長 S48. 1. 1－ S. 51. 12. 31.））

- 09年度第1回評議員会以後の経過について報告がなされた．

3.2　国内庶務幹事（小林）

- シンポジウム等の後援，協賛の報告がなされた．
「第12回マリンバイオテクノロジー学会大会 5/30，31」
「第46回アイソトープ・放射線研究発表会 7/1－3」
「平成21年度女子中高生夏の学校2009～科学・技術者のたまごたちへ 8/13－15」
- 学術賞・研究助成の結果報告がなされた．
東レ財団1件不採択，山田財団2件不採択
- 電子化委員会を発足し，来年の役員選挙での電子化投票導入，大会参加登録システムおよび演題登録システムの導入について説明がなされた．副会長の設置については，まだ議論が十分なされていないので，継続検討とした．

3.3　渉外庶務幹事（遠藤　俊）

将来計画幹事が担当していた遺伝学談話会を引き継ぎ，若手会員の獲得を目指す．来年は関東，中国・四国地区にて談話会を開催する予定である．また，学部学生向けのチュートリアル（夏の学校，寺子屋など）の開催を行いたい旨の報告がなされた．

3.4　会計幹事（真木）

2008年度の収支報告，2009年度の中間報告，決算報告外資金についての報告がなされた．また，特別事業基金から来年度の特別予算として，電子化プロジェクト委員会，遺伝学用語集編集委員会，チュートリアルへ150万円たてた旨の報告がなされた．

3.5　編集幹事（舘田）

懸念されていた投稿数の減少が9月に入り増加してきたこと，今年度GGS PRIZE2008の推薦がなかったことの報告がなされた．また，レビューの投稿依頼があり，対策として，学会から呼びかけをおこなっていくこととした．今年度も科学研究費補助金を申請することの報告がなされた．

3.6　企画集会幹事（岩崎）

- 金澤章評議員より，第82回大会（札幌）は2010年9月20，21，22日に開催する予定であり，市民公開講演会のテーマは“人間生活に関わる遺伝学”に決定したと報告がなされた．

- 第83回大会候補地は関西地区（京都，奈良）で開催予定と報告がなされた．

3.7　将来計画幹事（山本，代理小林）

- 法人化については周りの学協会の動向を見ながら対応していくこととした．
- 遺伝学用語集編集委員会の進捗状況の報告がなされた．

3.8　男女共同参画（松浦）

男女共同参画学協会連絡会の活動への協力，名古屋大会，松本大会でのランチョン WS 開催について，学会 HP への男女共同参画のページ立ち上げについての報告がなされた．

3.9　広報担当（斎藤）

GSJ. COM の編集について，前編集担当の石和元会長への編集支援を依頼した．今後は英語版 HP を強化していく．また，大会参加登録システム構築についての説明がなされ，田村評議員のご協力で，北海道大会より新システムを導入する予定である旨の報告がなされた．

3.10　遺伝学普及・教育担当（池村）

活動状況の事例の紹介がなされた．

3.11　日本学術会議報告（五條堀）

第20期日本学術会議の活動報告がなされた．

3.12　2009年度日本遺伝学会賞選考委員会報告　（五條堀）

6月29日に学士会館にて開催された学会賞選考委員会について次のとおり報告がなされた．木原賞1件奨励賞5件の応募があり，審議の結果，次の会員を授賞者とした．

木原賞：該当者なし

奨励賞：久原　　篤（名古屋大学大学院　理学研究科）会員

長岐　清孝（岡山大学資源生物科学研究所）会員

3.13　生物科学学会連合報告　（岩崎，石和）

- 第20回国際生物学オリンピク開催報告（2009/7/12－19）
- 第22回連絡会議報告

4　協議事項

4.1　奨励賞の年齢条項撤廃について次のとおり説明がなされ，審議の結果，了承された．

提案理由：最近の若手研究者の状況は変化し，以前にくらべポスドクの期間が長くなり，また任期制導入の影響で移動の機会が増え，独自の研究を開始する時期が遅くなっている．そこで下の様に奨励賞の年齢条項を撤廃することを提案する．

現在）1.　日本遺伝学会奨励賞

遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い，将来の成果が期待される比較的若い研究者（原則として40才以下の会員）に授与する．

から年齢に関する条項を除き，

提案）1.　日本遺伝学会奨励賞

遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い，将来の成果が期待される会員に授与する．

4.2　シニア会員の会費値下げについて次のとおり説明がなされ，審議の結果，了承された．

提案理由：我が国の少子高齢化の状況から，今後の遺伝学会の活動にシニア世代の役割が重要になってくることが考えられる．しかし，現状は定年退職に伴って退会する会員が少なくない．そこで，シニア会員が定年退職後も学会活動に参加しやすい環境を作ることを目的として，定年退職後に常勤職についていない場合は会費を6,000円に減額することを提案する．

提案）

第5条　本会会員は普通会員，機関会員，賛助会員および名誉会員とする．毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき，あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を，機関会員は15,000円を，賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること．会員で会費滞納 1年におよぶものは資格を失うものとする．

以　上

日本遺伝学会第81回大会総会議事録

日　時：2009年９月17日（木）　17時30分～18時30分
場　所：信州大学理学部Ａ棟・講義棟　Ａ会場
出席者：五條堀会長，幹事他90名
１．議長選出
　議長に鈴木会員（北海道大学）片岡会員（信州大学）が選出された．
２．伊藤大会委員長挨拶
３．五條堀日本遺伝学会会長挨拶
４．報告事項（評議員会議事録参照）
５．議　　事
① 2008年度会計決算について
　小林庶務幹事（代理）から総会資料にもとづき説明がなされた．また，印南秀樹会計監査から，6月30日に角谷徹仁会計監査とともに国立遺伝学研究所にて会計監査を実施した結果，2008年度の会計は適正に行われている旨の報告があり，それぞれ承認された．
② 2010年度予算案について
　小林庶務幹事（代理）から，総会資料にもとづき説明があり，予算通り承認された．
③ 第83回大会について
　岩崎企画集会幹事から，第83回大会が評議員会において関西地区で開催することが認められている旨の報告がなされ，同地区での開催が承認された．
④ 名誉会員の推薦
　五條堀会長から，国内名誉会員に平賀壮太会員，太田朋子会員を推薦したい旨の報告があり，了承された．
⑤ 奨励賞の年齢撤廃について
　小林庶務幹事から奨励賞の年齢撤廃について説明がなされ，承認された．
⑥ シニア会員の会費値下げについて
　小林庶務幹事（代理）からシニア会員の会費値下げについて説明がなされ，承認された．
⑦ 第82回大会委員長挨拶
　高木信夫次期大会委員長から，2010年９月20日～22日に北海道大学で第82回大会を開催する準備を進めている旨，挨拶があった．

日本遺伝学会奨励賞授与式記録

総会終了後，今年度の奨励賞受賞者久原篤会員（名古屋大学）および長岐清孝会員（岡山大学）に五條堀孝会長からそれぞれ賞状と副賞が授与された．授賞式終了後に奨励賞受賞講演が行われた．

日本遺伝学会第81回大会を終えて

今年度の日本遺伝学会大会は，去る９月16日から18日までの３日間，長野県松本市の信州大学理学部を会場として開催しました．松本での大会は実に62年振りのことでした．久しぶりの地方都市での開催であり，日本のほぼ中央に位置するとは言え，必ずしも各地からの交通の便がよいとは言えず，当初はどれだけの会員の方々にお出でいただけるか不安な所がありました．しかし，事前登録，当日登録を含めて，最近の大会とほぼ同数の参加者があり，懇親会にも多数の出席者があり，当初の心配は結果として杞憂となりました．また，一般口演発表の演題数も最近の大会とほぼ同数であり，今大会では諸般の事情から国際研究集会を同時開催せず，シンポジウム，ワークショップなどの数を多めに設定したため，総演題数は最近の大会をやや上回ったと思われます．ご参加いただいた会員のみなさま，いろいろご支援いただいた会長を始めとする学会役員，幹事のみなさまに厚く御礼申し上げます．

信州大学には遺伝学会の会員が３名しかいないという状況であったため，信越地域に範囲を広げて会員のご協力を仰ぎました．また，学内の関連分野の方々には非会員であるにも拘らず，大会準備にご協力いただきました．さらに，シンポジウム，ワークショップなどの演者として相当数の非会員の方々のご参加をいただきました．これらのみなさまにも深く感謝しております．

さて，今大会の松本での開催は，品川前会長の「遺伝学の地方への普及と学会員の増加」，「地方を元気づける」などを目標として，地方都市でも大会を開催してはどうかとのお考えのもとに提案され実現したものでした．上に述べたように今大会は幸いにも盛況裏に開催できましたが，前会長が考えられたような方向へ果たして状況が向かって行くのかどうか今後を見守りたいと思います．

大会委員長　伊　藤　建　夫

⚜名誉会員および学会賞受賞者の紹介⚜

名 誉 会 員

太田　朋子 会員

平賀　壮太 会員

日 本 遺 伝 学 会 木 原 賞

該当者なし

日 本 遺 伝 学 会 奨 励 賞

久原　　篤 会員
（名古屋大学大学院　理学研究科　助教）
「温度受容と記憶学習の神経遺伝学」
Molecular neurogenetics of thermosensation and learning and memory

長岐　清孝 会員
（岡山大学資源生物科学研究所・准教授）
「植物の染色体構造に関する研究」
Analysis of chromosome structures in plants

2009年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推　薦　者：森　　郁恵（名古屋大学　大学院　理学研究科　教授）
受賞候補者：久原　　篤（名古屋大学　大学院　理学研究科　助教）

・略　　歴
1999年　　：名古屋大学　理学部　分子生物学科卒業
2001年　　：名古屋大学大学院理学研究科　生命理学専攻　博士前期課程　修了
2002－2004年：日本学術振興会特別研究員 DC
2004年　　：名古屋大学大学院理学研究科　生命理学専攻　博士後期課程　修了　博士（理学）
2004－2005年：日本学術振興会特別研究員 PD
2005－2007年：名古屋大学　大学院理学研究科　助手
2007－現　在：名古屋大学　大学院理学研究科　助教

・受賞歴等
2004年　日本遺伝学会　第76回大会　Best Paper 賞
2005年　15th International C. elegans Meeting,　Best poster prize
2007年　井上科学振興財団　第23回　井上研究奨励賞
2007年　日本遺伝学会　第79回大会　Best Paper 賞
2008年　文科省 GCOE プログラム　名大「システム生命科学の展開：生命機能の設計」若手顕彰
2007年　ブレインサイエンス振興財団　第21回　研究助成
2007年　持田記念医学薬学振興財団　平成19年度　研究助成

・遺伝学会における活動歴
第80回大会　大会運営委員，ワークショップオーガナイザー，一般講演座長
第79回大会　ベストペーパー賞受賞
第78回大会　ワークショップ講演
第77回大会　公開シンポジウム招待講演
第76回大会　ベストペーパー賞受賞
　他，第72から80回大会をとおして，毎年発表を行ない，28演題の発表に参加（共著を含む）

・研究題目：（和文）温度受容と記憶学習の神経遺伝学
　　（英文）Molecular neurogenetics of thermosensation and learning and memory

・推薦理由
　本受賞候補者の久原　篤会員は，動物の「温度感覚と記憶学習のメカニズム」の解明を目指す神経遺伝学の次世代を担う若手のホープです．久原会員は，名古屋大学理学部及び，同大学院修士課程に入学され，線虫 *C. elegans* の神経遺伝学の研究を開始されました．博士課程進学後は，日本学術振興会特別研究員 DC に採択され，「リン酸化による感覚神経の感度調節メカニズムの解析」により博士（理学）の学位を取得されました（参考文献７）．この研究は，「感覚ニューロンの感度調節」の研究分野に大きなインパクトを与え，７年たった今でも多数の論文や review 誌に引用されています（50件以上）．大学院時代の業績が評価され，卒業後すぐに日本学術振興会特別研究員 PD に採用されましたが，1年後に生じた助手採用の機会に職を得ました．その時期に行なっていた研究は，従来の分子神経遺伝学と，最新の光技術を組み合わせたチャレンジングな研究で，*C. elegans* の学習に関わる神経回路活動の可視化に成功し，記憶学習がわずか３対のニューロンによって制御されていることを明らかにしました．さらに，学習に関わる神経回路において，カルシウム依存性の脱リン酸化酵素であるカルシニューリンと，分泌性タンパク質であるインスリンを介した情報伝達が必須であることを明らかにしました（参考文献４，５）．これらの分子は，ヒトの脳における学習と記憶にも関与していることが近年明らかになってきたことから，Current Opinion を始めとする Review 誌への掲載など，国内外から注目を浴びています（参考文献２）．
　最近，発表された研究は，動物の温度受容の分子機構の研究に新たな突破口を開く仕事となりました（参考文献１）．過去10年以上に渡り，動物は温度を感覚神経に存在する TRP チャネル型の温度受容体によって受容すると考えられていました．ところが，久原会員らの研究から，*C. elegans* の温度受容が，哺乳類の視覚や嗅覚の分子機構と同様に，３量体Ｇタンパクを介して行なわれていることが明らかになりました．感覚の分子機構の大部分は，線虫からヒトまで保存されているため，「温度受容と３量体Ｇタンパク質」という新しい研究分野を開拓するブレークスルーとして世界中から脚光を浴びています．上記以外にも，久原会員が行なってきた研究は，いずれも非常にレベルの高い学術論文雑誌に掲載され，高い引用度を誇っており，国際学会での多数の口頭発表，国際学会での座長，また，多数の報道などから客観的に分かるように，いずれも神経遺伝学分

野のランドマークとなる研究であるといえます．このように久原会員の神経遺伝学における研究は，その将来が大いに期待されます．

久原会員は，長年に渡り遺伝学会の会員であり，遺伝学会によって育てられた研究者といっても過言ではありません．これまで毎年，遺伝学会大会において発表を行なっており，２度のベストペーパー賞の受賞，公開シンポジウムでの招待講演，一般講演の座長だけでなく，大会の運営や企画準備にも積極的に協力しています．2008年度の大会においても，大会委員を努め，ワークショップのオーガナイザーも行なっております．久原会員自身も遺伝学で活動することに誇りを持っており，育てて頂いた学会に対する感謝の言葉を度々口にしています．以上のような点から，久原会員は，今後の神経遺伝学分野のリーダーの一人となるべき研究者であり，日本遺伝学会奨励賞の候補者として最適な人物であると断言できます．

・主要業績リスト

1. Kuhara, A.[§], Okumura M.[§], Kimata T., Tanizawa Y., Takano R., Kimura D. K., Inada H., Matsumoto K., and Mori I. [§]equally contributed “Temperature sensing by an olfactory neuron in a circuit controlling behavior of *C. elegans*” ***Science, 320, 803–807, 2008***
2. Mori, I., Sasakura, H., and Kuhara, A. “Worm thermotaxis: a model system for analyzing thermosensation and neural plasticity” ***Current Opinion in Neurobiology, 17: 712–719, 2007*** **(Review)**
3. Tanizawa, Y., Kuhara, A., Inada, H., Kodama, E., Mizuno, T., and Mori, I. “Inositol Monophosphatase regulates localization of synaptic components and behavior in the mature nervous system of C. elegans” ***Genes & Developement,*** **20: 3296–3310, 2006**
4. Kodama, E., Kuhara, A., Mohri-Shiomi, A., Kimura, K. D., Okumura, M., Tomioka, M., Iino, Y., and Mori, I. “Insulin-like signaling and the neural circuit for integrative behavior in C. elegans” ***Genes & Developement,*** **20: 2955–2960, 2006**
5. Kuhara, A.[*] & Mori, I.[*] ([*] corresponding author) “Molecular physiology of the neural circuit for calcineurin dependent associative learning in Caenorhabditis elegans”（**This week in the journal article**） ***The Journal of Neuroscience,*** **26（37）: 9355–9364, 2006**
6. Sasakura, H., Inada, H., Kuhara, A., Fusaoka, E., Takemoto, D., Takeuchi, K., and Mori, I. “Maintenance of neuronal positions in organized ganglia by SAX-7, a Caenorhabditis elegans homologue of L1” ***The EMBO Journal,*** **Vol. 24, 1477–1488, 2005**
7. Kuhara, A., Inada, H., Katsura, I., and Mori, I. “Negative Regulation and Gain Control of Sensory Neurons by the C. elegans Calcineurin TAX-6” ***Neuron,*** **Vol. 33, 751–763, 2002**
8. Satterlee, J., Sasakura, H., Kuhara, A., Berkeley, M., Mori, I., and Sengupta, P. “Specification of Thermosensory Neuron Fate in C. elegans Requires ttx-1, a Homolog of otd/Otx” ***Neuron,*** **Vol. 31, 943–956, 2001**
9. Gomez, M., Castro, E. D., Guarin, E., Sasakura, H., Kuhara, A., Mori, I., Bargmann, C. I., and Nef, P. “Ca^{2+}-signaling via the neuronal calcium sensor-1 regulates associative learning and memory in C. elegans” ***Neuron,*** **Vol. 30, 241–248, 2001**

・日本語総説・著書等

1. 久原　篤 “嗅覚ニューロンにおける G タンパクを介した温度受容メカニズム” ブレインサイエンスレビュー **2009**，p 63–80，クバプロ書籍，2009　伊藤正男，川合術史　編
2. 森　郁恵　&　久原　篤 “線虫（C. elegans）の行動を制御する神経回路における嗅覚ニューロンによる温度の感知” サイエンス誌に載った日本人研究者**2008**，p 20，2009
3. 久原　篤，木全　翼，森　郁恵 “神経回路の活動と接続のライブイメージング” 実験医学　増刊号　ライブイメージングで解き明かす多彩な生命現象，Vol. 26 No. 17, 89–95, 2008　宮脇敦史　編
4. 久原　篤　&　森　郁恵 “線虫における G タンパクを介した温度感知行動” 細胞工学　特集号　行動を支配する遺伝子，Vol. 27 No. 11, 1106–1111, 2008　飯野雄一　編
5. 久原　篤　&　森　郁恵 “線虫 C. elegans の温度走性をもちいた感覚と学習行動の遺伝学的研究” 生物物理，48(3)，167–173，2008
6. 久原　篤，笹倉寛之，木全　翼，森　郁恵 “温度学習行動の分子神経回路メカニズム” 蛋白質　核酸　酵素　増刊号　神経の分化，回路形成，機能発現，Vol. 53 No. 4, 580–586, 2008　三品昌美・山森哲雄・狩野方伸・村上富士夫・貝淵弘三　編
7. 久原　篤 “Gタンパクを介した温度受容メカニズムと温度情報伝達の機能的神経回路” 日本遺伝学会第79回大会 Best paper 賞，**Genes & Genetic Systems, GSJ communications, Vol. 82 No. 6, 2007**
8. 久原　篤，奥村将年，森　郁恵 “温度受容ニューロンにおけるGタンパクを介した新規温度受容伝達メカニズム” 生物の科学　遺伝，別冊 No. 21, 250–252, 2007
9. 児玉英志，久原　篤，森　郁恵 “線虫 C. elegans における温度走性行動の分子神経ネットワークメカニズム” 蛋白質　核酸　酵素，Vol. 52, No. 3, 205–213, 2007
10. 久原　篤 “C. elegans においてカルシニューリンが関与する連合学習行動を制御する神経回路の同” 若手研究者が語る21世紀の遺伝学（Ⅲ）―日本遺伝学会第76回大会 Best paper 賞，**Genes & Genetic Systems, Vol. 79 No. 5, 4, 2004**

11. Mori, I., Okumura, M., and Kuhara, A. “Molecular neurogenetics of sensory behaviors in the nematode C. elegans” Jpn. J. Neuropsychopharmacol, Vol. 24 No. 4, 239–241, 2004
12. 久原　篤　＆　森　郁恵 “生物の嗅覚系３. 線虫” **香りの百科事典**, 480–483, 丸善出版, 2004（著書）
13. 久原　篤　＆　森　郁恵 “感覚刺激とそれに対する応答” **線虫　究極のモデル生物**, 101–109, Springer 出版, 2003（著書）

プレスリリース

1–1.　2006年11月３日（金）朝日新聞　朝刊　線虫の神経回路名大が働き解明　３細胞で温度情報処理
1–2.　2006年11月３日（金）日刊工業新聞
1–3.　2006年11月８日（水）中日新聞　朝刊　線虫の記憶機能解明　２つのタンパク質がカギ　人へ応用期待
2–1.　2006年12月11日（月）中日新聞　そううつ病に関与の酵素を解明　線虫使い名大グループ
2–2.　2006年12月12日（火）日刊工業新聞　名大　人の躁うつ病と関連する酵素　線虫行動で機能確認
3.　2008年４月11日（金）においの神経　温度も感知，Gたんぱく質　温度も感知
テレビ：NHK 総合テレビ（おはよう日本）７時，CBC テレビ（イッポウ）17時
ラジオ：NHK ラジオ
新　聞：朝日新聞，毎日新聞，中日新聞，日本経済新聞，日刊工業新聞，日経産業新聞，中部経済新聞　など

＜受賞コメント＞

久原　　篤

この度，伝統ある日本遺伝学会奨励賞を賜ることができ大変光栄に感じております．多くの先生方や大学院生の皆さんを初めとする多くの方々に研究を支えて頂いたおかげだと実感しております．とくに，名古屋大学理学研究科の森 郁恵 先生には，研究の指導から研究者としての生き方まで多くの面でご指導頂きました．あらためて感謝申し上げます．これまでに，主に温度感知と記憶学習に関わる神経回路と遺伝子を線虫 C. elegans を使い同定してきました．ただ，生物はすべからく奥深いように，線虫のように302個しか神経細胞を持たない動物でも，神経情報処理の複雑さに日々驚いています．それは，主に２つの観点から言えまして，１つめは，神経細胞がネットワークをつくっているため，回路全体の情報処理としてとらえる必要があること．２つめは，１つ１つの神経細胞が思ったよりも多様な機能を持っていること，例えば，温度感知細胞が温度を感知するだけでなく「記憶」も行い，複数の環境情報を「識別」したりもします．つまり，１つ１つの神経細胞を取ってみても，実はスーパーコンピューターのような役割をしており，神経回路はそのコンピューターネットワークではないかと考えています．このスーパーコンピューターのロジックを解明するためには，従来の方法論に加え突拍子もないアイデアが必要になってくる気がします．ただ，今の私には，突拍子もないアイデアは思いつかないため，遺伝学を基盤として多くの研究領域を融合させることで研究を発展させることができればと思います．最後になりましたが，これまでにお世話になりました先生方，そして遺伝学会に深く感謝申し上げます．

2009年10月１日から職位が変わりましたので記載させて頂きます．
名古屋大学　大学院　理学研究科　講師

2009年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推　薦　者：村田　　稔（岡山大学資源生物科学研究所・教授）
受賞候補者：長岐　清孝（岡山大学資源生物科学研究所・准教授）

・学　　歴
1989年４月～1993年３月：私立日本大学農獣医学部応用生物科学科
1993年４月～1995年３月：横浜市立大学院総合理学研究科修士課程
1995年４月～1998年３月：横浜市立大学院総合理学研究科博士課程
横浜市立大学院総合理学研究科において博士（理学）を取得

・職　　歴
1996年４月～1998年３月：日本学術振興会特別研究員（DC）
1998年４月～1998年６月：横浜市立大学院総合理学研究科特別研究生
1998年７月～2001年10月：横浜市立大学木原生物学研究所遺伝進化学部門助手
2001年11月～2003年８月：米国ウィスコンシン大学 Research Associate
2003年９月～2004年１月：米国ウィスコンシン大学 Assistant Scientist
2004年１月～2006年３月：岡山大学資源生物科学研究所核機能解析グループ助手
2006年４月～2007年３月：岡山大学資源生物科学研究所核機能解析グループ助教授
2007年４月～　　：岡山大学資源生物科学研究所核機能解析グループ准教授
現在に至る.

・遺伝学会における活動歴
1994年に日本遺伝学会に入会し，米国留学期間を除き毎年大会に参加し，発表を行ってきた．最近では，第79回大会では大会準備委員およびプログラム編集委員を第80回大会ではワークショップの世話人をつとめる等，大会運営に関わる活動も積極的に行っている．

・研究題目：（和文）植物の染色体構造に関する研究
（英文）Analysis of chromosome structures in plants

・推薦理由
長岐清孝氏は，大学院生のときから植物の染色体構造とそれに関連する DNA 配列およびタンパク質について，研究を行ってきた．近年は，その中でも動原体を主な研究対象として，植物の動原体構造とその進化に関する研究を進め，この研究分野に大きく貢献してきた．以下に長岐氏の業績の主なものを紹介する．

横浜市立大学大学院生時の研究において，ムギ連の植物を材料に用いて反復配列の研究を行っていた長岐氏は，ライムギの系統内に多型的に存在するヘテロクロマチン領域特異的に存在する縦列型反復配列（JNK repeat）を単離した（Nagaki et al. 1999）．この配列の有無とヘテロクロマチン領域の有無が完全にリンクしていたことから，この配列が染色体上に反復することによりその領域がヘテロクロマチン化していることを明らかにした．この様なヘテロクロマチンと反復配列の直接的な関係に関する研究はほとんど無く，この研究はその点において重要な研究であるといえる．

長岐氏は，同じく横浜市立大学大学院生時に，サトウキビから縦列型反復配列（SoCEN repeat）を単離し，それが動原体に局在していることを明らかにした（Nagaki et al. 1998）．この時期は，植物動原体研究の黎明期であり，動物動原体の主な構成 DNA 配列である種特異的縦列型反復配列が植物動原体にも存在することがシロイヌナズナやイネなどのモデル植物でやっと明らかになった時期であった．長岐氏のサトウキビにおける研究は，植物でも動物同様に種特異的縦列型反復配列が動原体を構成しているという理解に貢献した．

その後，サトウキビ動原体配列の研究が植物動原体研究の第一人者である米国ウィスコンシン大学の Jiang 教授の目にとまり，長岐氏は同大学で博士研究員として植物動原体の研究をさらに進めることになった．まず長岐氏は，トウモロコシ動原体由来の BAC の DNA 配列を決定し，そのクローン内に存在する配列の構成および転位因子の挿入過程を明らかにすることにより，トウモロコシ動原体の構造およびその進化過程を明らかにした（Nagaki et al. 2003a）．この解析により，トウモロコシ動原体には縦列型反復配列に加えて，１種の動原体特異的レトロトランスポゾン（CR）が多数挿入されていることが明らかになった．CR には２つの自律型と２つの非自律型があり，同様な構成が多くのイネ科植物でもみられることが後に明らかになったが，このトウモロコシでの研究はそれらの後の研究に多くの情報を提供した．

長岐氏は，トウモロコシの研究と平行して，機能的な動原体 DNA 配列を明らかにするために，抗動原体特異的ヒストン H3（CENH3）抗体を用いたクロマチン免疫沈降（ChIP）の植物用の実験系を開発した．CENH3 は，機能をもつ動原体のみで観察されることから，このタンパク質と共在する DNA 配列を明らかにすることにより，動原体領域に存在する DNA 配列の内どの配列が機能領域に存在するかを明らかにすることができる．長岐氏はこの方法を用いて，シロイヌナズナで動原体領

域に存在することが報告されていた反復配列のうち 180-bp ファミリー配列のみが CENH3 と共存していることを明らかにした（Nagaki et al. 2003b）．この方法は，後の植物動原体 DNA 配列の研究では必須の方法となり，この論文は50回以上も引用されていることからも，この手法がこの分野に大きく貢献したことがわかる．

続いて，長岐氏はトウモロコシの研究で培った長鎖 DNA 配列の解析法とシロイヌナズナの研究で培った ChIP 法を用いて，イネ第 8 染色体動原体領域の配列構成と機能部位を明らかにした（Nagaki et al. 2004）．通常，高等真核生物の動原体領域は数 Mb にわたる縦列型反復配列分布領域が存在するため完全配列を得ることは困難であるが，長岐氏は縦列型反復配列領域がほとんど無いという特長をもつこの動原体領域から完全配列を得て，その構成を明らかにした．また，ChIP 法によりこの配列の内，750 kb の領域が機能領域であることを明らかにした．さらに，得られた結果をもとに，この動原体がネオセントロメアから成熟した動原体への遷移過程にある「若い動原体」であるという動原体の進化モデルを提唱した．この成果は，Nature genetics 誌に掲載され，これまでに植物の研究者だけにとどまらず，動物や酵母の動原体研究者を含めて150回以上も引用されていることからも，その影響の大きさがうかがえる．この研究成果は，遺伝学会第76回大会でも発表され，Best paper 賞を受賞している．

長岐氏は，帰国後，岡山大学資源生物科学研究所でも植物動原体に関する研究を進め，植物ではじめて分子生物学的手法を用いて分散型動原体を解析した．分散型動原体は，通常の一次狭窄に局在する局在型動原体とは異なり，染色体全長にわたる動原体である．この様な動原体をもつ種は様々な生物界でごく希にみられ，それらの近縁種が局在型動原体をもつことから，分散型動原体は局在型動原体から生じたと考えられている．しかし，分散型動原体は線虫で唯一，分子生物学的解析がされているのみであった．長岐氏は，分散型動原体をもつ植物であるルズラから CENH3 をコードする遺伝子を単離し，推定されたアミノ酸配列をもとに抗 CENH3 抗体を作製した．この抗体を用いて，ルズラの分散型動原体は染色体側面の溝状の構造内に形成されることを明らかにした（Nagaki et al. 2005）．この研究と線虫での研究を比較することにより，分散型動原体で共通にみられる特長が明らかになった．

現在，長岐氏は植物人工染色体の作製を目指して，長鎖 DNA の形質転換が可能なタバコを材料に動原体タンパク質および DNA 配列の解析を進めている．これまでに，3 種の動原体タンパク質と 1 種の動原体 DNA 配列を明らかにした（Nagaki et al. 2009 および投稿中）．今後は，この配列を用いて植物人工染色体が作製されることが期待できる．

以上の様に，長岐氏は植物分子細胞遺伝学分野において多くの研究成果を発表し，それらの成果が同分野において高い評価を得ていること，さらに同分野をリードする世界的な研究者と成ることが期待されることから，同氏を日本遺伝学会奨励賞の候補者として推薦する．

＜受賞コメント＞

長岐　清孝

この度は，日本遺伝学会奨励賞をいただき，光栄に思います．日本遺伝学会は，私が初めて研究発表を行った学会であり，奨励賞は大学院生時代に木原生物学研究所で研究をしていた頃からの目標でもありました．私が，奨励賞をいただけたのは，これまで御指導いただいた先生方，共に研究を進めた方々，そして競争を続けたグッドライバル達のおかげであり，この方々への感謝の気持ちでいっぱいです．今後は，植物の細胞遺伝学分野で世界の研究者達と対等に戦えるチームを作り益々研究を発展させていきたいと考えていますので，ご支援いただければ幸いです．

国立遺伝学研究所　研究教育職員募集要項

1　所　　属：新分野創造センター
2　職名・募集人数：准教授　2～3名
3　採　用　条　件：「遺伝学の新しい分野を開拓する意欲をもつ若手研究者で，本研究所の研究環境・資源を活用して研究に集中し，優れた成果を挙げることが期待できる者」
4　追　加　情　報：

新分野創造センター准教授は，遺伝学の新たな分野を開拓していきたいという研究所の総意のもとに，若手の新進気鋭の研究者が独立したラボで研究を推進するためのポジションです．採用された研究者には，140 m^2 程度のラボスペースと，基盤研究費（1年目：1,200万円，2年目：1,000万円，3年目：500万円，以降：300万円（予定）），最長6年の期間中，博士研究員と研究支援推進員（テクニシャン）各1名のサポートを提供します．加えて遺伝研博士研究員1名（任期2年）（http://www.nig.ac.jp/jimu/kenkyu/NigPD-F/index.html 参照）の採用枠があります．総合研究大学院大学・遺伝学専攻の併任教員として大学院生の教育にも従事できます．新分野創造センターはテニュアトラック制になっており，採用後5年以内にテニュア獲得の申請が可能です．

本研究所は，充実した共通機器を有し，また遺伝子資源，各種モデル生物の変異体などのリソースの活用も可能であり，多くの共同研究も推進しています．また，男女共同参画の精神にのっとり女性研究者の積極的登用を図っています．

5　雇　用　期　間：5年（1回に限り1年の再任可能）
　　テニュアトラック制（業績評価によりテニュア付与が可能）
6　採用予定時期：決定後できるだけ早い時期
7　応募締め切り：2010年1月29日（金）正午必着
8　提　出　書　類：
(1) 履歴書（英文・和文各1通，年号は西暦，Eメールアドレス記入）
(2) 学術論文，総説などの目録（主要論文の番号に○印を付してください.）
(3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望　（英文A 4判2～3枚）
(4) 本人について評価できる研究者4名（うち国外2名以上）の氏名と連絡先
(5) 略歴書（HP に書式を掲載）
(6) 主要論文別刷
9　提　出　方　法：
提出書類（1）－（5）は，できるだけ電子メールでお願いします．
(a) メール題名（Subject:）を，「新分野創造センター准教授応募」とし，メール本文にもその旨明記してください．
(b) 提出書類（1）－（4）の内容は改頁で区切り，一つのファイルにしてメール添付で送付ください．ファイル形式は MS-Word または pdf でお願いします．
　また，（5）の略歴書については，様式をホームページからダウンロードの上記入してください．
(c) （6）の主要論文は，www で閲覧可能なものに関しては http アドレスを含んだリストをメール本文に記入し，別途郵送にて主要論文別刷一式を送付ください．

＊メールでの応募が不可能な場合には，郵送での応募も受け付けます．
郵送は，応募する部門・研究室名及び職名を封筒に朱書きし，書留で送付ください．
また，メール着信後，2日以内に受信した旨返信いたします．

提出・問い合わせ先等
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（人事・労務チーム）
E-mail: nigjinji@lab.nig.ac.jp
郵　送：〒411-8540　静岡県三島市谷田1111番地
電　話：055(981)6716（直通）　Fax：055(981)6734
ホームページ：http://www.nig.ac.jp/
国立遺伝学研究所組織図（http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html）

国立遺伝学研究所　研究教育職員募集要項

1　所　　属：構造遺伝学研究センター
2　職名・募集人数：教授又は准教授　１～２名
3　勤　務　形　態：常勤（任期なし），裁量労働制
4　採　用　条　件：「教授又は准教授として優れた研究業績及び高い見識と指導力を有し，構造あるいは定量性の観点から生命現象の解明に向けて独創的研究を推し進めることができる者.」
5　追　加　説　明：

構造遺伝学研究センターは分子から細胞，個体の各レベルで，遺伝学と構造生物学の境界領域で最先端の研究を行うとともに，生体内の構造を観察・解析する様々な手法を開発し，遺伝学に導入しています．本公募では，構造あるいは定量性の観点から生命現象解明に切り込める方を期待しますので，物理学からゲノム科学や生物学まで多様なバックグラウンドや様々なキャリアの方々の応募を歓迎します．遺伝研では准教授も独立に研究室を運営しますので，若手の応募も歓迎します．研究室名は着任後決めていただきます．また，所内外との共同研究を積極的に推進できる方を期待します．

なお，助教と研究支援推進員（テクニシャン）の各１名の採用が可能です．研究室の専有面積は，これまでの実績では 200～250 m^2 です．初年度は，整備のための費用（700万円）が用意されます．また，遺伝研博士研究員１名（任期２年）（http://www.nig.ac.jp/jimu/kenkyu/NigPD-F/index.html 参照）の優先採用枠の使用が可能です．

6　採用予定時期：決定後できるだけ早い時期
7　応募締め切り：2010年２月１日（月）正午必着
8　提　出　書　類：

(1) 履歴書（英文・和文各１通，年号は西暦，Ｅメールアドレス記入）
(2) 学術論文，総説などの目録（主要論文の番号に○印を付してください.）
(3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望　（英文Ａ４判２～３枚）
(4) 本人について評価できる研究者４名（うち国外２名以上）の氏名と連絡先
(5) 略歴書（HP に書式を掲載）
(6) 主要論文別刷

9　提　出　方　法：

提出書類（1）－（5）は，できるだけ電子メールでお願いします.

(a) メール題名（Subject:）を，「構造遺伝学研究センター教授（又は准教授）応募」とし，メール本文にもその旨明記してください.（希望職種を明記ください.）
(b) 提出書類（1）－（4）の内容は改頁で区切り，一つのファイルにしてメール添付で送付ください．ファイル形式は MS-Word または pdf でお願いします.
　また，（5）の略歴書については，様式をホームページからダウンロードの上記入してください.
(c) （6）の主要論文は，www で閲覧可能なものに関しては http アドレスを含んだリストをメール本文に記入し，別途郵送にて主要論文別刷一式を送付ください.

＊メールでの応募が不可能な場合には，郵送での応募も受け付けます.
郵送は，応募する研究室名等及び職名を封筒に朱書きし，書留で送付ください.
また，メール着信後，２日以内に受信した旨返信いたします.

提出・問い合わせ先等

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（人事・労務チーム）
E-mail: nigjinji@lab.nig.ac.jp
郵　送：〒411-8540　静岡県三島市谷田1111番地
電　話：055(981)6716（直通）　Fax：055(981)6734
ホームページ：http://www.nig.ac.jp/
国立遺伝学研究所組織図（http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html）

第21回　国際シロイヌナズナ研究会議開催のご案内

第21回　国際シロイヌナズナ研究会議（The 21st International Conference on Arabidopsis Research, ICAR2010）を2010年６月６日午後より10日午前までパシフィコ横浜で開催致します．プログラムの概要と主な演者は以下のとおりです．

６月６日（日）Keynote Lecture, Reception
７日（月）Plenary Session, Concurrent Session, Workshop, Poster Session
８日（火）Plenary Session, Free afternoon, Workshop, Poster Session
９日（水）Plenary Session, Concurrent Session, Banquet
10日（木）Plenary Session

招待講演：
Maarten Koornneef, Elliot Meyerowitz（以上 Keynote 演者）

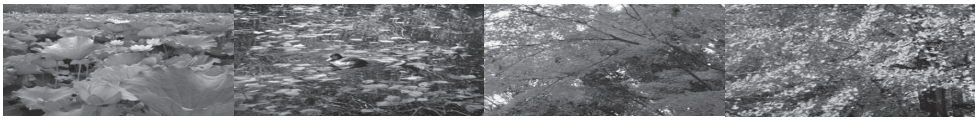
Motoyuki Ashikari, Kathryn Barton, David Baulcombe, Philip Benfey, Michael Bevan, Joseph Ecker, Ikuko Hara-Nishimura, Inhwan Hwang, Koh Iba, Dirk Inze, Tetsuji Kakutani, Steve Kay, Cris Kuhlemeier, Chentao Lin, Olivier Loudet, Makoto Matsuoka, Peter McCourt, Seung Yon Rhee, Kazuki Saito, Satoshi Tabata, Keiko Torii, Detlef Weigel, Shinjiro Yamaguchi, Qifa Zhang（以上 Plenary Lecture 演者）

詳細についてはホームページ（http://arabidopsis2010.psc.riken.jp/）よりご確認下さい．登録開始は12月１日の予定です．国内から多くの方が ICAR 2010 に参加，発表され，これを機会に日本の植物科学研究がより盛り上がり，一層発展していく事を期待しております．

ICAR2010 開催準備委員会
委 員 長：篠崎　一雄
副委員長：岡田　清孝
委　　員：小林　正智，松井　　南，米田　好文，内藤　　哲，荒木　　崇，塚谷　裕一，中村　保一，
　　長谷あきら，高木　　優，斉藤　和季，西村　幹夫，青木　　考，関原　　明

独立行政法人 科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

さきがけ



公開合同シンポジウム さきがけ2領域 2009 東京

「RNAと生体機能」&「代謝と機能制御」

12月15日（火）10:00～17:00

「RNAと生体機能」第1回研究報告会

研究総括 野本 明男

特別講演 古市泰宏（ジーンケア研究所 会長）

研究者報告

- 井川 善也 （九州大学大学院工学研究院 准教授）
- 伊藤 耕一 （東京大学医科学研究所 准教授）
- 上野 義仁 （岐阜大学工学部 准教授）
- 影山 裕二 （科学技術振興機構 専任研究者）
- 田原 浩昭 （科学技術振興機構 専任研究者）
- 泊 幸秀 （東京大学分子細胞生物学研究所 准教授）
- 朝長 啓造 （大阪大学微生物病研究所 准教授）
- 中村 崇裕 （九州大学大学院農学研究院 特任准教授 ）
- 中村 貴史 （東京大学医科学研究所 特任准教授）
- 沼田 倫征 （産業技術総合研究所 研究員）
- 藤原 俊伸 （神戸大学大学院工学研究科 准教授）

12月16日（水）10:00～17:00

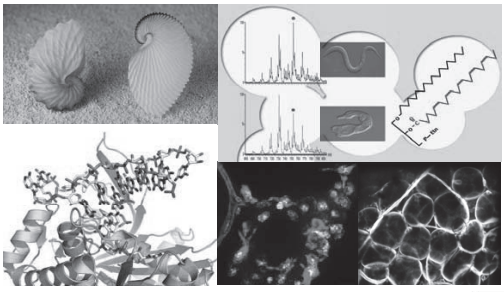
「代謝と機能制御」第2回研究報告会

研究総括 西島 正弘

特別講演 須田年生（慶應義塾大学医学部 教授）

研究者報告

- 有田 誠 （東京大学大学院薬学系研究科 准教授）
- 今井 浩孝 （北里大学薬学部 准教授）
- 榎本 和生 （国立遺伝学研究所 准教授）
- 川島 博人 （静岡県立大学薬学部 准教授）
- 小松 雅明 （東京都臨床医学総合研究所 副参事研究員）
- 佐野 元昭 （慶應義塾大学医学部 講師）
- 重信 秀治 （科学技術振興機構 専任研究者）
- 新藤 隆行 （信州大学大学院医学系研究科 教授）
- 中戸川 仁 （東京工業大学統合研究院 特任助教）
- 西野 邦彦 （大阪大学産業科学研究所 准教授）
- 眞鍋 一郎 （東京大学大学院医学系研究科 特任准教授）



会 場： 東京大学弥生講堂・一条ホール
東京都文京区弥生1－1－1 東京大学弥生キャンパス

参加費： 無料（ 交流会：2500円、12月15日 17:30～ ）

お申し込み、お問い合わせは下記の領域ホームページを参照下さい。
http://www.rna.jst.go.jp/sympo/index.html
http://www.metabolism.jst.go.jp/sympo/index.html

主 催： 独立行政法人 科学技術振興機構

公開合同シンポジウム　さきがけ2領域　2009　東京
プログラム

12月15日（火）　RNA と生体機能

10：00	開会にあたって	野本　明男　研究総括
	テーマ1「RNA の生化学」	座長：塩見　春彦（慶應義塾大学 教授）
10：10	影山　裕二（科学技術振興機構）	世界最小のペプチド遺伝子の発見とその機能
10：35	田原　浩昭（科学技術振興機構）	線虫の RNA 干渉におけるシグナル増幅と mRNA 分解の機構解明
11：00	藤原　俊伸（神戸大学）	RNA 結合タンパク質が決定する細胞の運命～細胞周期のコントロールから分化まで～
11：25	泊　　幸秀（東京大学）	小さな RNA が働くしくみ
11：50	昼　　食	
	特 別 講 演	座長：堅田 利明（東京大学 教授）
12：50	古市　泰宏（株）ジーンケア研究所 会長	「siRNA 医薬による肝癌の分子標的治療」
	テーマ2「RNA の構造・機能」	座長：松藤　千弥（慈恵会医科大学 教授）
13：40	沼田　倫征（産業技術総合研究所）	構造生物学に基づく tRNA の転写後修飾メカニズムの分子基盤解明
14：05	井川　善也（九州大学）	純和製 RNA テクノロジーによる高機能な RNA 酵素（リボザイム）の開発
14：30	中村　崇裕（九州大学）	任意の RNA 配列に結合，切断する新しい酵素の開発に向けて
14：55	伊藤　耕一（東京大学）	RNA とタンパク質の世界をつなぐ分子メカニズム
15：20	休　　憩	
	テーマ3「RNA の利用」	座長：水本　清久（北里大学 名誉教授）
15：35	上野　義仁（岐阜大学）	有用で安定な RNA 分子の開発
16：00	朝長　啓造（大阪大学）	細胞核で RNA 分子を安定かつ長期に発現させる技術の開発
16：25	中村　貴史（東京大学）	RNA ゲノムを用いた悪性腫瘍に対する治療法の開発
16：50	結びの挨拶	JST
17：30	交　流　会	

12月16日（水）　代謝と機能制御

10：00	開会にあたって	西島　正弘　研究総括
10：10	特別講演　　須田　年生　慶應義塾大学医学部　教授	「低酸素性ニッチにおける幹細胞代謝」
10：50	有田　　誠（東京大学）	炎症反応の収束に関わる脂質性メディエーターの代謝と網羅的解析
11：15	今井　浩孝（北里大学）	脂質ヒドロペルオキシドによる細胞機能制御と疾病との関連の解析
11：40	佐野　元昭（慶應義塾大学）	代謝産物の変化情報に基づく心筋機能制御法の確立
12：05	昼　　食	
13：00	榎本　和生（国立遺伝学研究所）	脳神経ネットワーク形成における脂質機能の網羅的解析
13：25	中戸川　仁（東京工業大学）	オートファジーにおける脂質膜組織化機構の解明
13：50	小松　雅明（東京都臨床医学総合研究所）	オートファジーによる選択的代謝経路とその破綻による病態発生
14：15	西野　邦彦（大阪大学）	異物排出トランスポーターによる細胞機能制御の解明
14：40	休　　憩	
15：00	重信　秀治（科学技術振興機構）	複合系の代謝制御－アブラムシ細胞内共生系をモデルとして
15：25	川島　博人（静岡県立大学）	硫酸化糖鎖の組織特異的な機能発現機構の解明
15：50	新藤　隆行（信州大学）	受容体活性調節タンパクの機能解明と血管新生および血管合併症治療への応用
16：15	眞鍋　一郎（東京大学）	ストレス応答破綻としてのメタボリックシンドロームと動脈硬化の分子機構解明
16：40	結びの挨拶	1　西島　正弘　研究総括 2　JST

◆会　員　異　動◆

新入会・再入会

小　林　佑理子	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所バイオリソースセンター　実験植物開発室
田　邉　康　志	700-8530	岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
江　本　宗　玄	700-8530	岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科　生物科学専攻分子遺伝学研究室
関　　優　太	099-2493	北海道網走市八坂196 東京農業大学生物産業学研究科
高　岡　榮　二	780-0955	高知市旭天神町292-26 高知学園短期大学医療衛生学科
高　祖　崇　好	710-0046	岡山県倉敷市中央2-20-1 岡山大学資源生物科学研究所
岩　川　秀　和	487-8501	愛知県春日井市松本町1200 中部大学植物バイオ研究センター
牧　野　　茂	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター
佐　藤　行　人	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　集団遺伝研究部門
笠　原　道　弘	192-0395	東京都八王子市大塚359 帝京大学医学部物理学教室
小　山　陽　亮	339-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学理工学研究科
俵　元　麻　貴	565-0871	大阪府吹田市山田丘3-2 大阪大学　蛋白質研究所
古　田　芳　一	108-8639	東京都港区白金台4-6-1　2号館2階西側 東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻バイオ医療知財分野
畑　中　彬　良	910-8507	福井市文京3-9-1 福井大学大学院工学研究科生物応用化学専攻
小野木　章　雄	371-0121	群馬県前橋市金丸町316 社団法人　家畜改良事業団
釣　本　敏　樹	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院・理学研究院
清　家　泰　介	558-8585	大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学大学院
原　　義　令	338-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院理工学研究科
真　田　悠　生	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科
村　田　卓　也	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理研バイオリソースセンター
西　永　有　利	338-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院理工学研究科
眞　野　恭　伸	910-8507	福井市文京3-9-1 福井大学大学院工学研究科
小田原　真　樹	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学理学部生命理学科

梅　川　　満	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院　理工学研究科　生命科学系専攻　分子生物学コース 遺伝情報研究室
千　葉　美奈子	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院　理工学研究科　生命科学系専攻　分子生物学コース 遺伝情報研究室
奥　津　裕　文	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院理工学研究科生命科学専攻
上　床　修　弘	060-8589	札幌市北区北９条西９丁目 北海道大学大学院農学研究院
小　林　啓　恵	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　育種遺伝研究部門
都　丸　英　敏	376-8515	桐生市天神町1-5-1 群馬大学　工学部　工学研究科
中　江　俊　喜	376-8515	桐生市天神町1-5-1 群馬大学　大学院　工学研究科　応用科学・生物化学工学専攻
岡　本　治　子	444-8585	愛知県岡崎市明大寺町西郷中38 自然科学研究機構　基礎生物学研究所　ゲノム動態研究部門
矢　口　和　哉	239-8686	神奈川県横須賀市走水1-10-20 防衛大学校　理工学１号館防衛大学校　理工学研究科 素材・エネルギー化学講座　生物学教室
黒　川　裕美子	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　変異遺伝研究部門
FU　　YU	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　育種部門
為　国　　愛	812-8581	福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院
田　中　絢　子	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻
上　野　広　樹	386-8567	長野県上田市常田3-15-1 信州大学大学院工学系研究科応用生物科学専攻 繊維学部　応用生物学系　林田研究室
有　賀　大　輔	386-8567	長野県上田市常田3-15-1 信州大学大学院総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻 繊維学部　応用生物学系　林田研究室
佐々木　　卓	411-8540	三島市谷田1111 国立遺伝学研究所国立遺伝学研究所育種遺伝研究部門
後　藤　友　二	487-8501	愛知県春日井市松本町1200 中部大学　生命健康科学部
石　井　孝　佳	680-8553	鳥取県鳥取市湖山南４丁目101 鳥取大学大学院農学研究科生物生産科学専攻
毛谷村　賢　司	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院薬学研究院分子生物薬学分野
中　川　　繭	351-0198	埼玉県和光市広沢2-1 理化学研究所　生物照射チーム　リサーチアソシエイト
村　尾　雅　司	630-0192	奈良県生駒市高山町8916-5 奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス研究科 原核生物分子遺伝学講座
福　島　達　也	386-8567	長野県上田市常田3-15-1 信州大学　ヒト環境科学研究支援センター　遺伝子実験部門
相　井　城太郎	956-8603	新潟市秋葉区東島265-1 新潟薬科大学応用生命科学部植物資源学・細胞工学研究室
矢　倉　　勝	411-8540	三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
川　浦　香奈子	244-0813	横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学木原生物学研究所

橋本　輝	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院 理工学研究科（生体制御）
加藤　徹	060-0810	札幌市北区北10条西８丁目 北海道大学大学院理学研究院
福世真樹	108-8639	東京都港区白金台4-6-1 京大学大学院 新領域創成科学研究科　生命科学研究系 メディカルゲノム専攻　バイオ医療知財分野
松嵜健一郎	565-0871	大阪府吹田市山田丘３番２号 大阪大学蛋白質研究所　ゲノム染色体機能研究室
木島隆之	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村） 総合研究大学院大学　先導科学研究科　生命共生体進化学専攻
鈴木祥太	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学理学部生命理学科
桂　有加子	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町（国際湘南村） 総合研究大学院大学　先導科学研究科　生命共生体進化学専攻
八木孝司	599-8570	大阪府堺市中区学園町1-2 大阪府立大学先端科学イノベーションセンター
佐藤亮子	277-8562	千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学・新領域・生命棟502 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻
仁木宏典	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
筒井康博	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　変異遺伝研究部門
内藤　健		（連絡先自宅のため不掲載）
須永　愛		（連絡先自宅のため不掲載）
矢原耕史		（連絡先自宅のため不掲載）
根岸武彦		（連絡先自宅のため不掲載）
神谷雄介		（連絡先自宅のため不掲載）
三上　尊		（連絡先自宅のため不掲載）
塚原小百合		（連絡先自宅のため不掲載）
水野仁子		（連絡先自宅のため不掲載）
小川佳孝		（連絡先自宅のため不掲載）
宮坂勇輝		（連絡先自宅のため不掲載）
鈴木大資		（連絡先自宅のため不掲載）
濱田大樹		（連絡先自宅のため不掲載）
磯部琴葉		（連絡先自宅のため不掲載）
坂井亜紀子		（連絡先自宅のため不掲載）
臼田大輝		（連絡先自宅のため不掲載）
和田哲也		（連絡先自宅のため不掲載）
馬　立秋		（連絡先自宅のため不掲載）
金子真也		（連絡先自宅のため不掲載）
茂木　章		（連絡先自宅のため不掲載）
岩崎裕貴		（連絡先自宅のため不掲載）
伊藤　亮		（連絡先自宅のため不掲載）

連絡先変更

井川　武	739-8526	広島県東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科・附属両生類研究施設
郷　通子	105-0001	東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス２階大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

松　田　洋　一	464-8601	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科 応用遺伝・生理学講座　動物遺伝制御学研究分野
足　立　　隼		Room D118 Institute of Genetics The University of Nottingham Queen's Medical Centre Nottingham NG7 2UH UK
大　坪　久　子	102-8251	東京都千代田区五番町12-5 日本大学・総合科学研究所
山　田　博　万	616-8354	京都市右京区嵯峨一本木町1 京都工芸繊維大学　ショウジョウバエ遺伝資源センター
大　野　みずき	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院医学研究院　基礎放射線医学分野
岩　崎　博　史	226-8501	横浜市緑区長津田町4259 B-8 東京工業大学大学院　生命理工学研究科　分子生命科学専攻 バイオダイナミクス講座
檜　作　洋　平	606-8507	京都府京都市左京区聖護院川原町53 京都大学ウィルス研究所　がんウィルス研究部門 がん遺伝子研究分野
岸　　努	226-8501	神奈川県横浜市緑区長津田町4259-B26 東京工業大学大学院生命理工研究科
野　村　泰　治	939-0398	富山県射水市黒河5180 富山県立大学工学部生物工学科植物機能工学講座

退　　会

松本圭史，高山信彦，前畑祐喜，大里直樹，上田真久，小原良孝，鈴木　隆，福田江里，藤川和世，赤井政郎，河合幹彦，倉満恭子，鶴　剛史，藤兼亮輔，當利和夫，大塚高弘，廣瀬玉紀，田名部雄一，市川洋子，南九州大学高鍋図書館，野田産業科学研究所

訃　　報

田　島　弥太郎　（国内名誉会員）　2009年７月20日に逝去されました．享年96歳

三　浦　謹一郎　（国内名誉会員）　2009年９月21日に逝去されました．享年78歳

謹んで，哀悼の意を捧げます．

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 79	No. 6	(2009)
農業生物資源研究所研究資料		8 号	(2009)
統計数理	Vol. 57	No. 1	(2009)
国立科学博物館専報		No. 45	(2008)
AVANCE Y PERSPECTIVA	Vol. 2	No. 1, 2	(2009)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 78	No. 1, 2	(2009)
Acta zoologica cracoviensia	Vol. 52A	No. 1–2	(2009)
Acta zoologica cracoviensia	Vol. 52B	No. 1–2	(2009)
folia biologica	Vol. 57	No. 1–4	(2009)
Journal of Applied Genetics	Vol. 50	No. 1, 3	(2009)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 39	No. 1–4	(2009)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRENDSHIP HOSPITAL	Vol. 23	No. 1–4	(2009)
ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 15	No. 2–4	(2009)

（鈴木真有美）

日本遺伝学会会則

第１条　本会は日本遺伝学会と称する．
第２条　本会は遺伝に関する研究を奨め，その知識の普及を計ることを目的とする．
第３条　本会は事務所を静岡県三島市谷田，国立遺伝学研究所内におく．
第４条　本会に入会しようとするものは住所，氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと．
第５条　本会会員は普通会員，機関会員，賛助会員および名誉会員とする．毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは6,000円）を，機関会員は15,000円を，賛助会員は１口（20,000円）以上を前納すること．会員で会費滞納１年におよぶものは資格を失うものとする．
第６条　本会は次の者を総会の決議により名誉会員とすることができる．
　本会に功労のあった者．外国の卓越した遺伝学者．
第７条　本会は隔月１回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する．
第８条　本会は毎年１回大会を開く．大会は総会と講演会とに分け，総会では会務の報告，規則の改正，役員の選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする．
　大会に関する世話は大会委員若干名によって行い，大会委員長は会長が委嘱する．大会は臨時に開くことがある．
第９条　本会は各地に談話会をおくことができる．
第10条　本会は会長１名，幹事若干名，会計監査２名の役員，および評議員若干名をおく．
1）会長は本会を代表し，会務を統轄する．
2）会長は，評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される．
3）評議員は，普通会員による直接選挙で選出される．
4）幹事は，会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される．
5）会計監査は，会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される．
6）会長は評議員会を招集し，その議長を務める．幹事は評議員会に出席するものとする．
7）評議員会は，会員を代表して，事業計画，経費の収支，予算・決算，学会誌の発行，大会の開催，その他重要事項について審議し，出席評議員の過半数をもって議決する．
8）会長ならびに幹事により幹事会を構成し，会長がこれを代表する．
9）幹事会は，学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に，会務を執行する．
10）会計監査は，学会の会計を監査する．
第11条　役員および評議員の任期は２カ年とする．会長および評議員は連続三選はできない．
第12条　本会の事務年度は暦年による．
付則　平成７年10月13日に第５条を改正し，平成８年１月１日から施行する．

Genes & Genetic Systems　第84巻４号（付録）
2009年11月20日発行　非売品
発行者　品川日出夫・斎藤　成也
印刷所　レターブレス株式会社
Letterpress Co., Ltd. Japan
〒739-1752　広島市安佐北区上深川町809-5番地
電話　082（844）7500
FAX　082（844）7800

発行所　日本遺伝学会
Genetics Society of Japan
静岡県三島市谷田1111
国立遺伝学研究所内

学会事務取扱
〒411-8540　静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内
日本遺伝学会
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html
（電話・FAX　055-981-6736
振替口座・00110-7-183404
加入者名・日本遺伝学会）

国内庶務，渉外庶務，会計，企画・集会，将来計画，編集などに関する事務上のお問い合わせは，各担当幹事あてご連絡下さい．
乱丁，落丁はお取替えします．

この冊子に記載してある個人情報については，慎重に取り扱っていただきますようお願いいたします．